

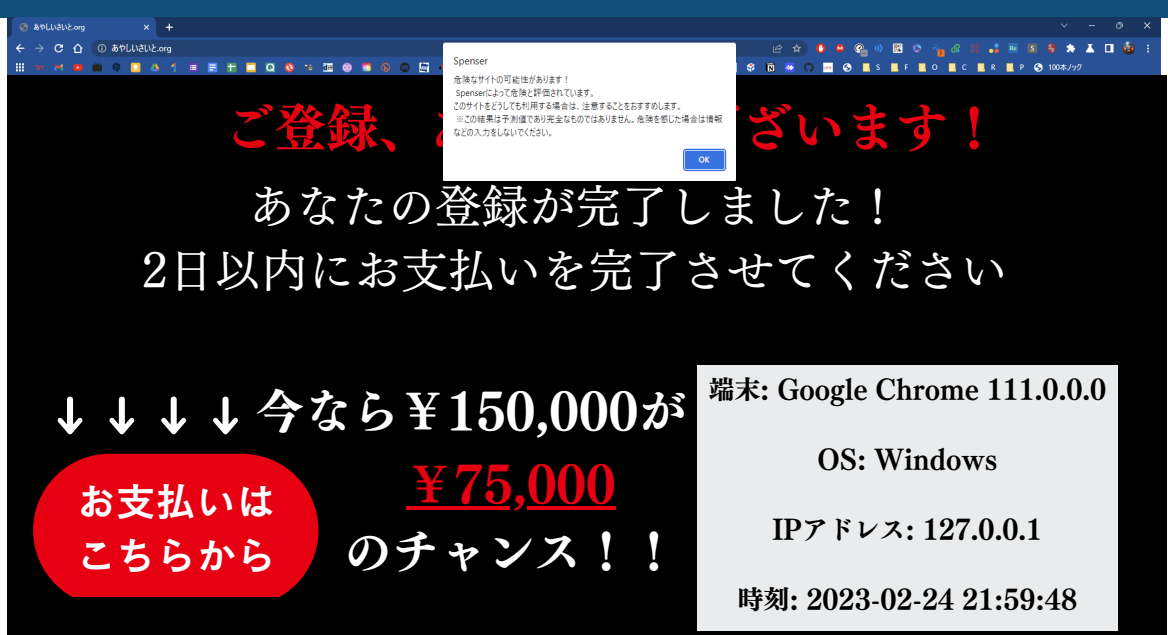
~いつものブラウザで学ぼう~

Spenser 08C 遠藤 千大



現 代の小中学生たちにとって、身近なセキュリティ脅威とは？

- "偽サイト" がとても多く存在する
- 多くの人 がインターネットを利用する



↑イメージ図↑
(サイトは架空のものです)

中学生だからこそ思うこと

今の時代、小学校の低学年ですらインターネットを利用している人がいる。つまり、小さい頃から常に脅威と隣り合わせなのだ。じゃあ、偽サイトなどを知らない状態で、彼らが偽サイトなどにアクセスしたときに、うまく対応できるだろうか。私はむしろかしいと思う。

僕の周りでも必要以上にインターネットを怖がっている人がいるように感じる。

なので、偽サイト検出ツールを作りたい。だけど、通知だけであればその場しのぎでしかない。それをどうにかしたい。なので、学習機能をつけたという経緯があるのだ。

#What is "Spenser"?

- 偽サイト検知
- URLの詐称通知
- 偽サイト等の報告
→ データベースを更新

既存の多くのサービスは、危険という事実の通知だけをしているが、それは「その場しのぎ」でしかない。なので、どこことなく気持ち悪さを感じる

#目標

- 偽サイトの判断をできるようにする
- その場しのぎな通知だけでなく、学べるようにする

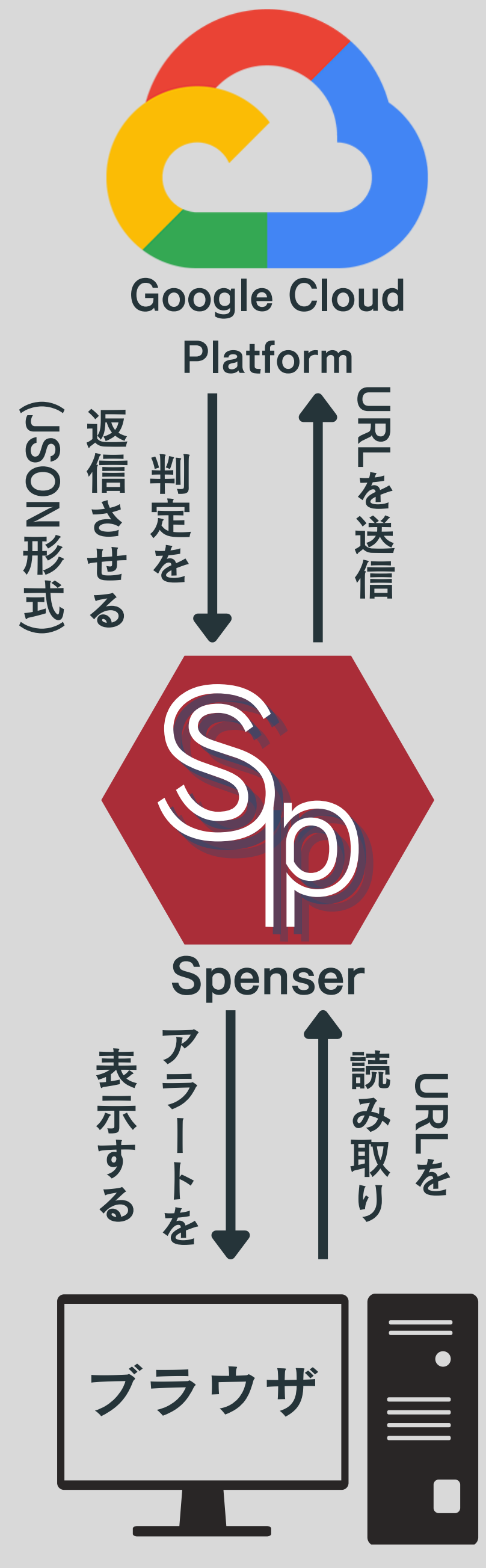
利用者ターゲットとその未来予想

- # ユーザーターゲット
 - 「インターネットでの詐欺」に引っかかりやすい人
→ 若い人が最も多い!
(フィッシング協議会 フィッシングレポート2022より)
 - インターネットを「適度に怖がる」ようになって欲しい
- # そこから予想される未来
 - 詐欺サイトによる被害を減らせる
 - セキュリティソフトに頼らなくても、安全にインターネットを利用できるようになる!
- # ブラウザ拡張で実装したワケ
 - OSによるファイルの違いがなく、ユーザー視点でもわかりやすい
 - アプリケーションのインストールよりも気軽にできる
→ ユーザーが増えやすくなる
→ OSによる「違い」がないのでわかりやすい。
→ PC初心者にもやさしい

「学べる」ということの「狙い」

- # 「学ぶ」要素をつけたワケ
 - 毎回、サービスに頼っている場合
→ 「サービスがあるから」と何も考えない
→ それでは、「その場しのぎ」になるだけで、なにも身につかない
→ それに課題を感じた
→ Spenserを「学べる」ようにした
- # 具体的にどうやって「学ぶ」のか
 - ポップアップで警告する (詳しくは、上の写真を参考。)
→ そこでURLの確認を促す
→ ユーザーに確認してもらう
- # 情報のアップデート
 - 偽サイトの情報を送信するためのフォームを作る
→ ユーザーから発見時に通報してもらうシステム
→ それをもとにデータベースを充実化する

仕組み



Spenserの開発

#すべての人に偽サイトを見抜く力を